

## 文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第6回）議事概要

開催日及び場所	平成21年6月29日（月） 文部科学省 会計課会議室	
出席委員 （敬称略）	○委員長 金本 良嗣（東京大学 大学院経済学研究科・公共政策大学院 教授）  ○委員 有川 博（日本大学 総合科学研究所 教授） 清水 幹裕（清水法律事務所 弁護士） 住田 光生（至誠監査法人 公認会計士） 松浦 亨（北海道大学病院 病院長補佐（病院経営、情報管理））	
審議対象期間	平成21年1月1日～平成21年3月31日	
個別審査対象案件	10 件	○議 事  （1）平成20年度第4四半期の物品・役務等契約に係る審査  （2）その他
一般競争入札方式	6 件	
最低価格方式	3 件	
総合評価方式	3 件	
指名競争入札方式	0 件	
最低価格方式	0 件	
総合評価方式	0 件	
随意契約方式	4 件	
企画競争	3 件	
公 募	0 件	
競争性のない随意契約	1 件	
不落随意契約	0 件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通してみると、当初と比較してだいぶ良くなってきている。</li> <li>・ただ、年度末ぎりぎりといったものがまだ目立つ。公告期間が短いと、特定の者以外を排除していると見られる可能性があるため、早期執行を行いできる限り公告期間を長く設けるべき。</li> <li>・今後は落札した法人の概要が分かる資料を添付してほしい。</li> </ul>	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p><b>1. 平成20年度第4四半期の物品・役務等契約に係る審査について</b></p> <p><b>(1) 一般競争入札方式（最低価格落札方式）</b></p> <p><b>①GIS（地理情報システム）のシステム及びシステム構築作業（文化庁）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本件を総合評価落札方式による入札ではなく、最低価格落札方式とした理由を。また、入札結果一覧を見ると落札金額と他の入札金額に大きな開きがある。ことごとについて何が原因と思われるか。</li> </ul> <p><b>②文教施設研究センター報告書等の英文翻訳業務（国立教育政策研究所）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>納品検査はどのように行っているのか。</li> </ul> <p><b>③国立教育政策研究所社会教育実践研究センター講義堂固定机 外（国立教育政策研究所）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予定価格を、どのように算定しているのか。</li> <li>年度末の執行ということもあり、短期間での履行が求められており、大企業でなければ対応できない調達である可能性が高いと考えられる。</li> </ul> <p><b>(2) 一般競争入札方式（総合評価落札方式）</b></p> <p><b>④科学技術・学術行政分野における子ども向けエンターテイメントスペシャルコンテンツの制作（大臣官房会計課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入札保証金の納付を実際に課すことはあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市販されている製品を購入する調達であるため価格だけで競争が可能なおことから最低価格落札方式にて行った。また、入札額の開きについては、徴取した見積書から推測するに、電子地図のキャッシュ化（画像化）の技術において、落札者側のコストパフォーマンスが発揮されたものと考ええる。</li> <li>納品日までに一度ドラフトを提出させ、センター長をはじめ研究者等の確認を経た後に納品させている。</li> <li>複数業者に照会をかけて参考見積もりを集め、最も安価なものを参考に作成している。</li> <li>入札保証金は、入札者が落札者となった際に万一その者が契約を締結しなかった場合の損害の填補を容易にするための保証金で</li> </ul>

- ・ 本件は、多くの者が競争に参加することが可能な調達案件だと考えられるが、何が1者応札となった要因と思われるか。
- ・ 総合評価落札方式の場合の落札率は90%を超えることが多いのか。
- ・ 実績要件を設定することは新規参入者を排除することにつながると考えるが、当該調達案件に付したような実績要件の設定は認められているのか。

**⑤子どもポータルサイトの制作（大臣官房会計課）**

- ・ 本件は、多くの者が競争に参加することが可能な調達案件だと考えられるが、何が1者応札となった要因と思われるか。
- ・ 総合評価落札方式における価格点と技術点の配分比はどのように決めているのか。

**⑥教員の勤務負担軽減のための学校の業務効率化に関する調査研究事業（初等中等教育局）**

あるが、物品・役務の調達については、全省庁統一の競争参加資格を持っている者であれば、資力を有していることが証明されていると判断して入札保証金を課していない。

- ・ 子ども向けのコンテンツの作成であり、専門的なノウハウや実績が必要であると考えられ、そのような者が他に存在しなかったと推測される。
- ・ 総合評価落札方式の性格上、最も優れた企画を提案した者の見積りをベースとして予定価格を算定せざるをえないため、どうしても落札率は高くなりやすい。
- ・ 過度な実績要件を設定することは新規参入を排除することとなり、厳に慎まなければならないと考えているが、履行の確実性から不合理とならない程度の実績要件はやむを得ないと考えている。
- ・ 要因は不明だが、入札説明会には15者来ているが、結果として1者となった。
- ・ 財務省の通知（財務大臣協議）で定められた配分率に従って行っている（広報関係の調達の場合、価格点の配分は全体の三分の一以上にしなければならないとされている。）。

- ・ 入札公告から説明会開催までの期間が非常に短い、いつもこのような状況なのか。
- ・ 公告期間の設定等に関するガイドライン等は設けていないのか。

- ・ 急遽決定した事業のため、短期間となったが、通常は早期執行に努めている。
- ・ 今年度より、総合評価落札方式及び企画競争方式による調達は、原則として公告期間を20日確保することとしている（6月より正式施行）。今年度の契約からはこうした案件は少なくなるものと思われる。

### **（3）随意契約方式（企画競争）**

#### **⑦平成20年度「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究」（文化庁）**

- ・ 参加者が5者ではあるが、それぞれのテーマごとに1者ずつ採択されている。実際にどのような競争をおこなったのか。また、予算があれば全部採択されるということになるのか。

- ・ 今回は、4者程度の募集に対し、5者の募集があり全員を採択したが、採択される条件として、審査員の平均点が3点以上であることが必須条件としている。もし応募者が多かった場合は、最も平均点の低い者が落選することとなる。

#### **⑧「平成20年度国際芸術交流支援事業（海外公演）淡路人形座2009アメリカ・カナダ公演」（文化庁）**

- ・ 企画競争方式は、会計機関ではない委員会等が選定した者を契約の相手方とすることになるが、これを競争による調達という整理はどのようになされているのか。
- ・ 企画競争については、複数者を採択する場合がありますが、本委員会での個別審査は、そのうちの採択された1者だけを審査している状況だが、本件がどのような競争がなされたかを審査をするためには、他の応募者の審査結果等が把握できるような資料の提供等の工夫を事務局は考えていただきたい。

- ・ 企画競争のスキームとしては、競争的資金などのように、外部有識者に審査されたものを契約機関に渡し、契約機関が本当にこの者と契約することが適切なのかを判断する。その点で企画競争は競争性を有しているものの会計上の整理としては随意契約ということになる。

- ・ 次回より改善します。

**⑨平成20年度「先導的大学改革推進委託事業」(高等教育局)**

- ・ 実施計画書等の公募期間が2週間は短いのでは。

**(4) 随意契約方式(競争性のない随意契約)**

**⑩書跡 重要文化財 伏見天皇宸翰御詠草百首(広沢切) 一巻(文化庁)**

- ・ 価格はどのように決定するのか。
  
  
  
  
  
- ・ 国外に流出している日本の美術品などを購入することはあるのか。また、個人が所有している美術品を購入することは多いのか。

**(6) 総括**

- ・ 全体を通してみると、当初と比較してだいぶ良くなってきている。
- ・ ただ、年度末ぎりぎりといったものがまだ目立つ。公告期間が短いと、特定の者以外を排除していると見られる可能性があるため、早期執行を行える限り公告期間を長く設けるべき。
- ・ 今後は落札した法人の概要が分かる資料を添付してほしい。

- ・ 今年度より、総合評価落札方式及び企画競争方式による調達は、原則として公告期間を20日確保することとしている(6月より正式施行)。今年度の契約からはこうした案件は少なくなるものと思われる。

- ・ 美術品を手放したいという申出者の申出価格と、買取評価会の評価額の安価な方を購入価格とする。評価額は複数の評価員(7名)のうち一番高い価格と低い価格を除いた残りの5人評価額の平均としている。
  
  
  
  
  
- ・ 海外にあるものを購入することはない。また個人から購入する例は比較的少ない。
  
  
  
  
  
- ・ 今回の個別審査で頂戴した意見も含め、今後の調達において改善してまいりたい。

(以上)